

WHO フルタイム勤務と博士課程の両立

氏 名：山中 拓也 2019 年度 (7 期)

修学機関：London School of Hygiene and Tropical Medicine (LSHTM) and School of Tropical
Medicine and Global Health, Nagasaki University

研究テーマ：Mitigating the economic impact of TB and diabetes in the Philippines

略 歴 (やまなか たくや)

東北大学理学部物理学科卒。KPMG ヘルスケアジャパンにて日本のヘルスケア業界の事業・財務アド
バイザリーに従事したのち、長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科にて 2018 年 9 月公衆衛生修
士号 (MPH) 取得。2018 年 10 月よりロンドン大学衛生熱帯医学大学院 (LSHTM)・長崎大学熱帯医学グ
ローバルヘルス研究科の Joint PhD Programme に所属 (Part-time PhD)。

上記 MPH・PhD と並行して、2017 年に WHO 西太平洋地域事務局・結核ハンセン病対策課で 5 ヶ月間
インターンシップに参加、2018～2019 年は同課にて WHO コンサルタントとして勤務。2019～2021 年は
WHO 本部・Global Tuberculosis Programme にて WHO コンサルタントとして勤務、2021 年 11 月より WHO
本部・同部署にて Technical Officer として勤務 (現在はスイス・ジュネーブ在住)。

博士課程の現状

私の博士課程研究テーマは、フィリピンの結核・糖尿病を併発している患者を対象に費用負担状況を調
査し、いつ・どのような患者群に・どのような社会保障の拡充が必要なのかという新たなエビデンスを示す
ことを目的としています。日本・フィリピン双方での COVID-19 感染拡大に伴い、研究計画・活動内容の
延期・変更を余儀なくされましたが、2022 年 8 月に無事すべてのフィールドデータ収集を完了することが
できました。

LSHTM-長崎大学の Joint PhD programme は基本的に LSHTM の Research Degree (PhD)の要件に準
拠しているため、博士の学位取得に当たっては 3 本の論文を peer review journal に投稿し、それを一つ
の博士論文にまとめることが求められます。現在私は、2018-2020 年に収集した結核患者世帯の費用負
担データを元に、「糖尿病併発グループと非併発グループ間の費用比較研究」、「longitudinal デザイン
と cross-sectional デザインでの結核患者世帯費用比較研究」の 2 本の論文を執筆中で、2023 年前半に
投稿することを目指しています。最後の 1 本は 2024 年前半までに「糖尿病スクリーニングを結核診断・
治療のアルゴリズムに統合した場合の費用対効果分析」を完了する予定でいます。

現在の WHO 業務

上記の博士課程研究活動と並行して、現在私は WHO 本部・世界結核対策プログラム (Global Tuberculosis Programme) の TB Monitoring, Evaluation, Strategic Information unit にて Technical Officer として勤務しています。

主な業務としては、WHO コンサルタント時代から関与してきた結核の Health Economics and Financing 分野、特に各国での TB patient cost survey の implementation に関与しています。2022-23 年は、パキスタン・ネパール・ザンビア・ナミビア等の国のサポートを行っています。

また、所属する unit は WHO の結核年次レポート (Global Tuberculosis Report) の担当部署であるため、レポート作成・執筆にかかるコアメンバーとして、2022 年レポート (<https://www.who.int/teams/global-tuberculosis-programme/tb-reports/global-tuberculosis-report-2022>) の 7 セクションのうち、セクション 1: COVID-19&TB、セクション3: TB diagnosis & treatment、セクション6: UHC & TB determinants の執筆を担当しました。

WHO で担当しているいずれの業務も PhD と関わりがある分野であるため、PhD と WHO 業務を並行して行なうことにより、Health Economics and Financing ならびに Data management and visualization の知見を強化することにつながっています。

最後に、博士課程 2 年次より支援いただいた FASID 奨学金プログラムには大変感謝しております。2024 年 9 月の博士号取得に向けて今後も邁進してまいりたいと考えております。